

〈ミュンヘン一揆の発生〉

1923年

A

クーン 退陣要求!

労働者階級

いんげんなんて
今回のインフレは
アッパアアッパ!

9/26

非常事態
宣言

ベルリン進軍などという
クーデタ騒ぎを計画中だ
そうじゃねえか!
ロツソウをただちに解任せよ!

10/20

ロツソウ
罷免命令

お金が紙クズになったおかげで
オイラたち農民は
借金が完済できちゃったよ
農作物の価値は変わらないから
インフレ大歓迎!

農民階級

1923. 9/26 -

バイエルン州 三頭政治

10/24

伯林
進軍

計画

ムッソリーニのローマ進軍に
倣って、我々もベルリン進軍を
するべきであるっ!

11/4

ダメだ...
俺たちの後ろ盾のゼークト将軍が
「自重しろ」って言ってる...

11/6

う〜っむ
じゃあ、
延期だ!
...

なにいっ〜!

民

① 州駐在陸軍司令官
オットー=ヘルマン=フォン
ロツソウ少将

② 州警察長官
ハンス=フォン
ザイサー

③ バイエルン州総督
グスタフ=リッター=フォン
カール

B

退陣

クーンは退陣させました!
ただちに経済の
立て直しの努力します!

ドイツ首相 第7代
グスタフ
シュトレゼマン
1923. 8/13 - 1923. 11/23

ドイツ首相 第6代
ヴィルヘルム=カール=ヨーゼフ
クーン
1922. 11/22 - 1923. 8/12

「時期尚早である。
自重せよ!」
11/3

Stop!

陸軍統帥部 長官
ヨハネス=フリードリヒ=レオポルト=フォン
ゼークト
1920. 3 - 1926. 10

ドイツ大統領 初代
フリードリヒ=エーベルト
1919. 2/11 - 1925. 4/26

ヒュルガー=プロイゲラー

34 years old

ヒトラー君に
協力してあげたまえ!

さぎの大戦の英雄
ルーデンドルフ将軍も
私を支持しておられるのだ!
逆らうことは許さんぞ!

よ〜し、そこまでだ!
ここはナチが制圧した!
これからベルリンに進軍する!
お前たちにも協力してもらおう!

おきゅん!

ナチス 党首
アドルフ=ヒトラー
1921. 7/29 - 1945. 4/30

第一次大戦の英雄
エーリッヒ=フリードリヒ=ヴィルヘルム
ルーデンドルフ

1923. 11/8
(8:30 pm ~)

頭
一
揆

④

⑤

第1章 新国際秩序の構築

第2章 イタリア全体主義

第3章 ヴァイマル共和国

第4章 ナチスの抬頭

第5章 ナチスの退潮

第6章 ナチスの独裁

こうして、1923年いっぱいにかけてドイツ全土を^{ハイパー}超インフレーションが^{ふる}猛威を揮い、^{プロレタリア}労働者らは^{えんさ}怨嗟の声を上げ^(*01)、その怒りは「クーノ内閣退陣要求暴動」(A-2)へと発展、社会は^{びらん}暴乱の一途をたどります。

その結果、8月になってついにクーノ政権は崩壊。(A-4/5)

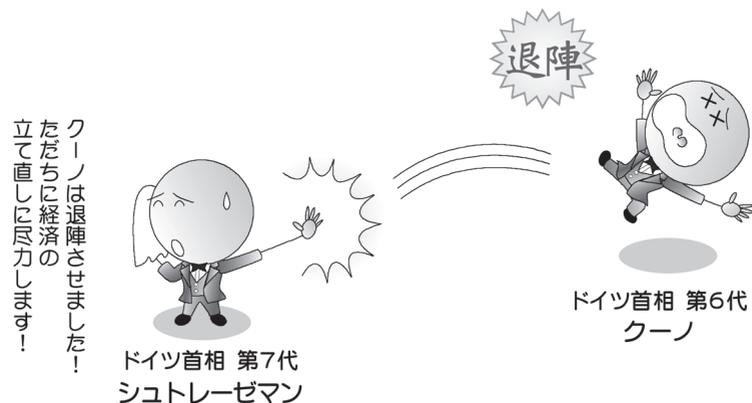
この混乱を收拾する期待を一身に背負ってG・シュトレゼマン(A-3/4)が新首相となります。

翌9月には「非常事態宣言」が発せられ(B-3)、彼が事態收拾に当たります。

こうした政府の混乱を受けて、ナチスが党勢を拡大したことはすでに触れましたが、ヒトラーはこのまま余勢を^か駆って一気にヴァイマル中央政府を倒すことまで考えはじめます。

ところで。

そのナチスの拠点ミュンヘンはバイエルン州^(*02)の州都ですが、このころのバイエルン州政府は中央から大幅な自治が認められ、以下の3名による「三頭政治」が布かれていました。(C-1/2)



(*01) 市民にとっては地獄だったこの超インフレも、農民(B-1)にとってはむしろ追い風となりました。貨幣価値がなくなってしまうことで、農民らが抱えていた借金は事実上チャラとなり、相対的に農産物が重要な価値を持つ社会となったからです。

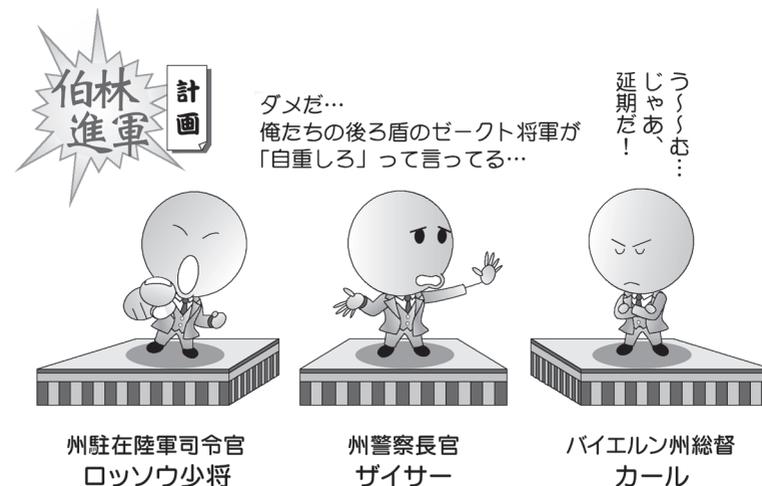
(*02) 本幕パネルの地図でいえば、(C/D-3/4)あたりです。

- 州総督 ^{グスタフ リッター} の G・R・カール (D-2/3)
- 州警察長官 ^{ハンス} の H・ザイサー (D-1/2)
- 州駐在陸軍司令官 ^{オットー ヘルマン} の O・H・ロッソウ (D-1)

そしてこの3人は、このときの中央^{ヴァイマル}政府の混乱に乗じて、バイエルン州を中央から独立させ、バイエルン王家^(*03)による「王国」を復活させたいと画策しはじめます。^(*04)

つまり、同じミュンヘンに拠点を置くバイエルン州政府とナチスは、「中央政府は敵」という点において一致していたため共闘することもありましたが、ナチスがあくまでも「中央政府を倒し新政府を樹立する！」ことまで考えていたのに対して、州政府はただ「バイエルンが中央から独立できさえすればよい」と、思想的に大きな隔たりがありました。

いわば、ナチス・州政府・中央政府の“三すくみ”状態です。



(*03) 神聖ローマ皇帝も輩出したことのある名門ヴィッテルスバッハ家。

(*04) 一口に「ドイツ」といっても、北ドイツと南ドイツでは歴史・文化・宗教(北:ルター派/南:カトリック)などが大きく異なっていたため、北ドイツ出身のプロシアに“併合”され「ドイツ帝国の一部」となってしまったことに不満を抱く南ドイツ住民は多く、南ドイツの中でもとくにバイエルンはスキさえあれば独立を狙っていました。